

イセエビ標識放流調査（1991年度の結果）

石田 陽司・小島 博・山添 喜教

過年度に引き続き、イセエビの生態を明らかにするために標識放流調査を行った。ここでは1991年4月から1992年3月までの間の再捕および放流実績を中心に述べ、さらに移動状況の特徴についても若干述べる。1991年3月以前の詳細については石田・小島（1990,1991,1992）、石田ら（1992）が既に報告している。

この一連の調査に際して、阿部、日和佐町、牟岐西（1992年1月1日より牟岐町漁協に統合）、牟岐東、鞆浦、宍喰の各漁業協同組合および牟岐鮮魚出荷組合（1992年1月1日より牟岐町漁協に統合）の関係者の方々には大変お世話になった。ここに深謝する。

材料と方法

今年度は10月28日に、海部町鞆浦漁協において、体長13cm以下のイセエビに個体識別可能な標識を装着して放流した。標識方法等は石田・小島（1990）に準じた。再捕情報は、主に漁業者からの報告に依った。体重で報告された場合の頭胸甲長への換算は石田・小島（1992）と同様である。

結果と考察

1 1990年以前の放流群の再捕状況

1990年以前の放流群の放流実績および1991年3月までの再捕状況の概略を表1に示す。これらの詳細については、石田・小島（1990,1991,1992）および石田ら（1992）を参照されたい。

これらの放流群のうち、1991年4月～1992年3月までに再捕された個体の放流・再捕場所および放流・再捕時の頭胸甲長を図1および表2に示す。この間に再捕された個体は、牟岐町地先で放流されたものが9個体、海部町鞆浦地先で放流されたものが1個体、放流場所不明のものが1個体の、計11個体であった。

表1 1991年3月までのイセエビ標識放流・再捕実績

放流場所	放流日			放流 個体数 (個体)	放流時 頭胸甲長 範囲 (mm)	1991年3月 までの再捕 個体数 (個体)	1991年3月 までの再捕 率 (%)
	1988年	1989年	1990年				
由岐町阿部地先	10月13日, 31日			19	37.1~43.4	1	5.26
日和佐町地先	9月19日, 10月13日			370	31.6~53.4	35	9.46
牟岐町地先	9月18日, 20日, 10月11日, 11月2日, 12月8日	10月13日	5月22日, 6月30日 7月21日, 8月18日 9月11日, 11月8日	2,204	26.5~99.9	128	5.81
海部町瀬浦地先	12月12日			435	29.7~46.4	9	2.07
穴喰町地先	6月6日, 7月25日 8月27日			255	28.7~79.4	10	3.92

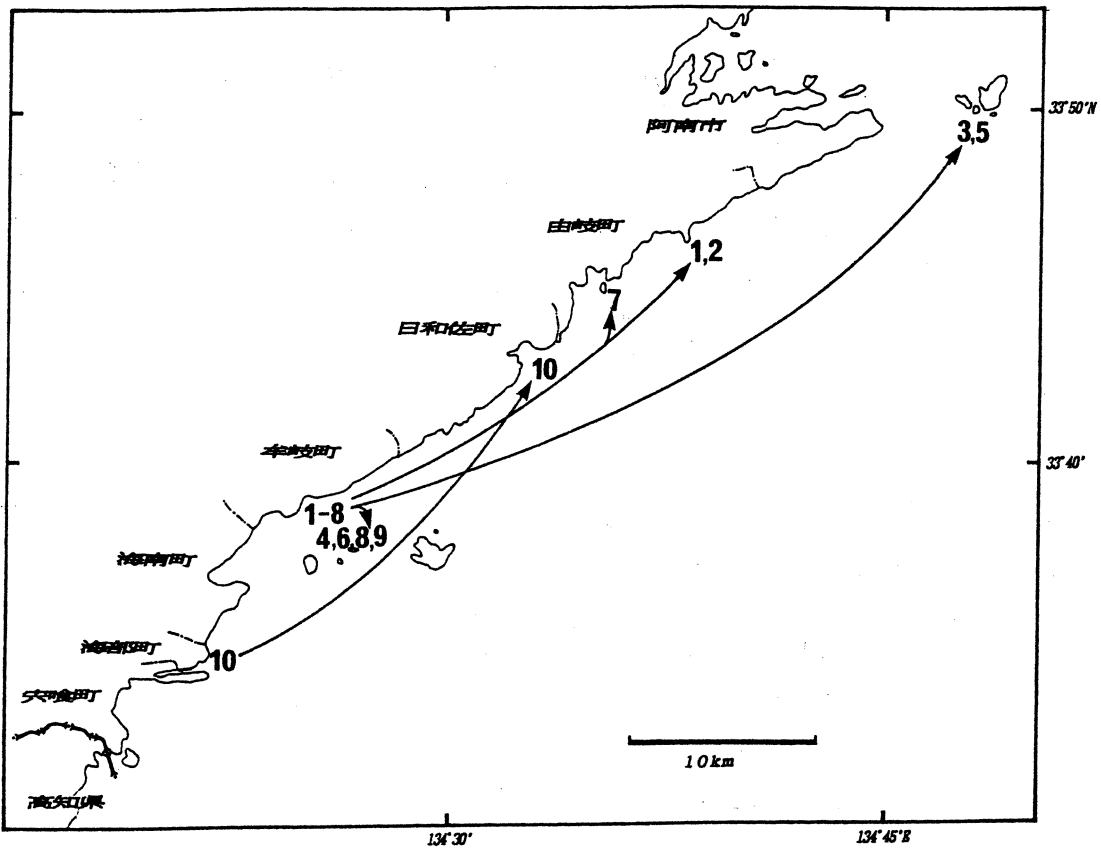


図1 過年度放流群の1991年度の個体別移動状況

図中の番号は個体番号(表2参照)を示す

表 2 過年度放流群の 1991 年度個体別再捕状況

個体番号	放流場所	放流日	性	放流時頭胸甲長 (mm)	再捕場所	再捕日	再捕までの経過日数 (日)	再捕時頭胸甲長 (mm)
1	牟岐町	1988.09.20	雌	40.0	由岐町阿部	1991.05.04	956	60.3
2		1988.10.11	雄	40.7	由岐町阿部	1991.05.13	944	70.6
3		1988.12.08	雌	35.9	阿南市伊島	1991.04.09	852	56.0
4		1989.10.13	雄	43.5	牟岐町	1991.04.16	550	不明
5		1989.10.13	雄	41.8	阿南市伊島	1991.05.03	567	64.1
6		1989.10.13	雌	42.1	牟岐町	1991.04.06	540	47.4
7		1990.05.22	雌	50.9	由岐町三岐田	1991.04.02	315	60.3
8		1990.11.08	雄	不明	牟岐町	1991.04.17	160	49.9
9		1990.11.08	不明	不明	牟岐町	1991.04.15	158	不明
10	海部町鞆浦	1989.12.12	雌	41.9	日和佐町	1991.05	505-535	58.6
11	不明	不明	不明	不明	室戸市椎名	1991.11.10	不明	不明

1) 牟岐町地先放流群の再捕状況

今回再捕報告があったのは、1988年9月～12月放流群のうち3個体（雄1個体、雌2個体）、1989年10月放流群のうち3個体（雄2個体、雌1個体）、1990年5月放流群のうち1個体（雌）および1990年11月放流群のうち2個体（雄1個体、性別不明1個体）であった。

1988年9月～12月放流の3個体は、いずれも1991年の4月～5月にかけて再捕された（経過日数852日～956日）。再捕場所は由岐町阿部および阿南市伊島で、長距離の移動を行っていた。これらの個体は、放流時の頭胸甲長は35～40mmであったが、再捕時には、頭胸甲長比が、雄は約1.7倍、雌は約1.5倍に成長していた。

1989年10月放流の3個体は、いずれも1991年4月～5月にかけて再捕された（経過日数540日～567日）。再捕場所は、雄1個体が阿南市伊島であったほかは、全て放流同一地先である牟岐町地先であった。これらの個体のうち2個体については再捕時頭胸甲長が得られている。雄1個体は放流時に41.8mmであったものが再捕時には64.1mmに、雌1個体は42.1mmであったものが47.4mmになっていた。

1990年5月放流の1個体（雌）は、1991年4月に由岐町三岐田で再捕された（経過日数315日）。放流時頭胸甲長は50.9mmであったが、再捕時には60.3mmになっていた。

1990年11月放流の2個体は、いずれも1991年4月に再捕された（経過日数158日～160日）。再捕場所は、ともに牟岐町地先で、大きな移動は認められなかった。これらについては、放流時と再捕時の頭胸甲長が明らかになっている個体はなかった。

2) 海部町鞆浦地先放流群の再捕状況

今回再捕報告があったのは、1989年12月放流の1個体（雌）であった。この個体は、1991年5月に、日和佐町地先で再捕され（経過日数852日～956日）、長距離の移動を行っていた。この個体の放流時頭胸甲長は41.9mmであったが、再捕時には58.6mmになっていた。

3) 過年度再捕も含めた移動状況

以上みてきた平成4年度の再捕結果に、過年度の再捕結果も加えた、移動状況の概略を表3に示す。表から明らかなように、海部郡沿岸のどこで放流しても、再捕の大部分は（ほぼ町単位でみた）放流同一地先でなされた。つまり、地先を越えて移動する個体の割合は少ないと言える。

表3 イセエビの移動状況の概略

放流地先名		由岐町阿部	日和佐町	牟岐町	海部町鞆浦	穴喰町	放流群全体
雄	放流地先より北へ移動して再捕された個体の割合 (%)	0.0	0.0	5.9	0.0	0.0	4.2
	放流同一地先内で再捕された個体の割合 (%)	100.0	100.0	85.9	100.0	100.0	90.0
	放流地先より南へ移動して再捕された個体の割合 (%)	0.0	0.0	8.2	0.0	0.0	5.8
雌	放流地先より北へ移動して再捕され個体の割合 (%)		10.0	10.6	40.0	16.7	13.2
	放流同一地先内で再捕された個体の割合 (%)	再捕なし	90.0	78.7	20.0	66.7	76.5
	放流地先より南へ移動して再捕された個体の割合 (%)		0.0	10.6	40.0	16.7	10.3

2 1991年度における放流実績と再捕状況

今年度は、海部町鞆浦において、10月28日に標識放流を行った(表4)。同港防波堤周辺に、雄179個体(平均頭胸甲長42.0mm)、雌92個体(平均頭胸甲長40.9mm)の、計271個体を放流したが、現在のところ再捕報告はない。

表4 海部町鞆浦におけるイセエビ標識放流実績(放流日:1991.10.28)

性	放流個体数 (個体)	頭胸甲長(最小 ~最大)(mm)	頭胸甲長(最小 ~最大)(mm)
雄	179	23.0~49.7	42.0
雌	92	24.1~45.5	40.9

参考文献

- 石田陽司・小島 博(1990): 小型イセエビの標識放流, 昭和63年度徳島水試事報, 66 - 68。
- 石田陽司・小島 博(1991): 小型イセエビの標識放流(3), 平成元年度徳島水試事報, 65 - 71。
- 石田陽司・小島 博(1992): 小型イセエビの標識放流(4), 平成2年度徳島水試事報, 79 - 85。
- 石田陽司・小島 博・山添喜教(1992): 禁漁期間中のイセエビ標識放流追跡調査(要約), 平成2年度徳島水試事報, 87 - 88。